

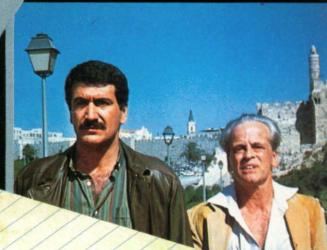
ダイアン・キートン

# リトル ドramaー ガール

彼女の名はチャーリー  
愛を信じて——  
過酷な戦いの世界で  
命がけの演技を続けた…

DIANE KEATON

THE  
LITTLE  
DRUMMER  
GIRL.



ジョージ・ロイ・ヒル作品  
ダイアン・キートン主演  
ジョン・ル・カレ作  
"リトル・ドramaー・ガール"  
共演ヨルコ・ボヤギス  
クラウス・キンスキ  
サミー・フレー  
音楽テープ・グルーシン  
製作総指揮バトリー・ケリー  
製作ロバート・L・クロフォード  
脚本ローリング・マンデル  
原作ジョン・ル・カレ  
監督ジョージ・ロイ・ヒル  
ワーナー・フューチャース映画

FROM WARNER BROS.  
A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY



## \*西ドイツ…イギリス…ギリシアそして中近東へ『女』は旅する！

物語は、西ドイツ、パート・ゴーデスベルクの平和を破った爆発テロ事件から始まる。その背景には、解決の展望は全くないパレスチナとイスラエルの泥沼の紛争があった。イスラエル防諜機関の冷徹なプロフェッショナルたちによって、練りに練られた隠密作戦の実行者として白羽の矢を立てられた新進女優は、偽りを真実にすりかえて現実の世界の荒地を旅する……。

## \*ジョン・ル・カレが全力を投入した最高傑作の完全映画化！

原作は、スパイ小説を書かせたら右に出るもののないジョン・ル・カレが、長年の懸案だった中東問題を素材に書きおろした力作で、ニューヨーク・タイムズのリストで16週間連続トップにランクされた大ベストセラー。イギリス外交官として、みずから諜報、防諜に関わったキャリアを持つル・カレは「リトル・ドramaー・ガール」を「私が書いたものの中で、劇場映画に凝縮し得る唯一の作品」と断言し、メジャー映画ぎらいを返上してロケハンにまで同行、作中の場面を監督に指示するという入れ込みようであった。

## \*巨匠ジョージ・ロイ・ヒル監督が熱中した雄大なスケールとロマン

これだけの原作をあずけられた映画作家たちの側では、世界中から一流のスタッフキャストを集め、小説のもつ緊迫したアリティ、ドラマ性、サスペンスを打ち出すことに全力投球。監督は、次々と意欲的な仕事を続けているベテラン、ジョージ・ロイ・ヒル。「スローター・ハウス5」、「ガープの世界」といった入り組んだ小説をスクリニーに移し、いずれも成功してのけたヒルであるが、今回も原作をゲラ刷りの段階で読んでたちまち夢中になり、この長大な物語の映画化というまったく新しい挑戦にすっかりとつかれてしまった。

## \*世界6カ国の名優たちが参加！

主人公のチャーリーには、今や押しも押されもせぬアメリカのトップ女優、ダイアン・キートン。イギリスの中流の上の階級の出で聰明と繊細さ、プライドと勇気、寛容とやさしさ及びそのすべての裏はらな部分をあわせ持っているがゆえに思いもかけぬ人生の方向転換を強いられるチャーリーは彼女をおいては考えられぬほど。この適役を確かな演技力と独自の控え目なエレガンスをもって演じている。イスラエル防諜班を率いる老齢のカーツには、西ドイツの怪優、クラウス・キンスキ。チャーリーが恋に落ちるイスラエル諜報員、ジョウゼフには、「ナザレのイエス」などのギリシャのベテラン俳優、ヨルゴ・ボヤギス、パレスチナ・テロリストのリーダー、カリルには、フランスから「夕なぎ」のサミー・フレーが、それぞれ扮している。主演俳優たちの顔ぶれでもわかる通り、出演者は6ヶ国から、国境も言葉や文化の違いも、そして個人的な政治観も超えて一堂に会した。



# リトル ドramaー ガール



ダイアン・キートン…………チャーリー  
ヨルゴ・ボヤギス…………ベッカー（ジョウゼフ）  
クラウス・キンスキ…………マーティ・カーツ  
サミー・フレー…………カリル  
監督…………ジョージ・ロイ・ヒル  
原作…………ジョン・ル・カレ



## \*愛を信じて——彼女は過酷な『戦いの世界』へ飛び込んで行った！

イスラエル軍情報部は、最近ヨーロッパ各地でひんぱんに起こっているパレスチナのテロリストたちのスーツケース爆弾によるユダヤ人迫害に報復しようと立ちあがった。ヨーロッパにおけるパレスチナ・ゲリラのリーダーとして、カリルという男が浮かびあがった。カリルは決して2晩以上おなじところで眠らないという狡智にたけた手ごわい相手だった。

その強敵カリルをつかまえる秘密任務を受けたのは、歴戦にたえぬいてきたイスラエル情報部の白髪のベテラン、マーティ・カーツ——彼をリーダーとするイスラエル情報部員たちは、カリルをワナにかけてつかまえるため、テロリストたちの爆弾にまさるともおとらない、綿密な作戦をくわだてた。それはスパイをひとり、テロリストの本拠地に潜入させることだった。カーツはそれをすぐ実行に移すこととした。だれにも知られていない、スパイらしくないスパイを雇うことが急務だった。

カーツが白羽の矢を立てたのは、チャーリーという26歳の魅力的なイギリス女優だ。彼女は、聰明で、勇敢で、気まぐれで、機知に富んでいて、強い語彙力の持ち主だった。もっと重要なのは、チャーリーが常軌を逸しているほどの急進主義者で、祖国イスラエルに対する忠誠心を發揮する機会を求めていたことだった。カーツは彼女の忠誠心を的確に見ぬいていたのだ。だが、なによりもまずチャーリーを乗り気にさせなければならなかった。

そのため、カーツはいちばん信頼している部下のガディ・ベッカーをチャーリー連れ出しのために派遣した。カーツは、この若い女優を自分たちの計画にのせるすべを心得ていた。なぜなら、俳優というものはすべからく、自分をうわべだけのむなしい人間と思うことがあるからだ。そこで、カーツはチャーリーに、「現実の舞台」で、芝居をしてみないかともちかけた。さらに、彼女が求めているものを暗黙のうちに与えようとした。つまり、カーツは自分が父親の役を演じ、ベッカーに恋人の役を、若い情報部員たちに兄弟の役を演じさせることにしたのだ。

いうまでもなく、チャーリーはこの任務をひき受けた。こんなすばらしいチャンスはなかったのだ。ベッカーが手にとるようにしてチャーリーの特訓にあたった。彼は彼女のために、パレスチナ人の恋人になりきり、われを忘れるほど熱烈にその役を演じた。

ベッカーが演じたパレスチナ人は、実在していた。チャーリーの標的であるテロリストのリーダー、強敵カリルの弟が、それだった。その弟は役立たずの人物だったが、すでにカーツの特殊工作員たちがミンヘンで捕虜にしていた。

カリルの弟がチャーリーを愛している、という文面の手紙を偽造したあと、カーツはその弟を消させた。あとは時間の問題だった。カリルが、弟の死を知って、悲しみにくれるその愛人チャーリーを呼びよせる……。

**近日ロードショウ！**  
特別ご鑑賞券￥1200(当一般1500円の処)発売中！

コマ劇場前  
ジョイパック  
ビル2F

上映時間 連日 11:00 1:40 4:10 6:50